

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	アスク両国保育園
施設所在地	墨田区
法人名	日本保育サービス

1. 活動のテーマ

<テーマ>

できる事をみつけよう

<テーマの設定理由>

子どもたちが自分で考え、出来ることを見付ける力を育めるようになってほしい為。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる

走る（30秒その場足踏み）、バランス（片足立ち耐久）、ジャンプ力（立ち幅跳び）、押す（アザラシ歩行）、引く（ぶら下がり耐久レスキュー）の記録をとり、子どもたちが記録を伸ばすためにはどんな遊びがあるのか、やってみて記録は伸びたか？また、何故伸びなかったのかを考え、再度遊びを考える。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ボール
- ・竹馬
- ・縄跳び
- ・大縄
- ・フラフープ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

測定の結果から、どのような遊びをしたら測定結果が良くなるのかを考え実施する。
ゲームを行い結果が良くなった子も、良くなかった子も、なぜそうなったのかを考え、新しいゲームを考え、行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもたちが考えた遊び

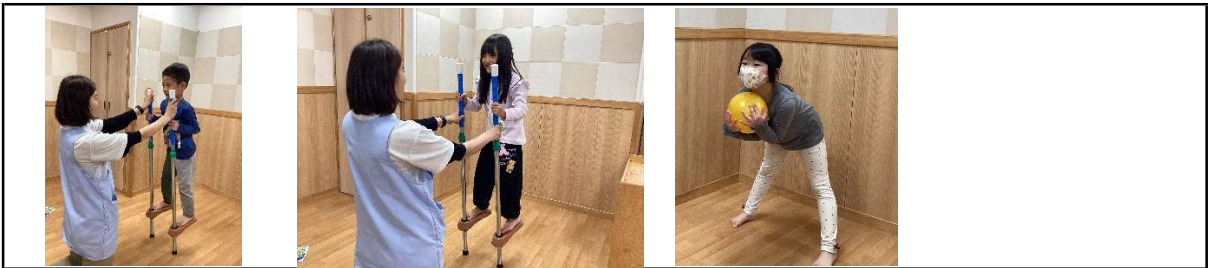
走る→鬼ごっこ、ドロケイ、リレー

バランス→バランスゲーム、竹馬、

ジャンプ→ケンケンパ、長縄、反復横跳び

押す→相撲、雑巾がけ、アザラシリレー、マット相撲、跳び箱

引く→大根抜きゲーム、綱引き、



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達が自分たちの出来るを見つれたり、子ども達の考えを、伝え、考える姿が見られたので良かった。保育者が考えもつかないゲームを考えたりすることが出来ていたので、声掛けを工夫していきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	アスク両国保育園
施設所在地	墨田区
法人名	日本保育サービス

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近にある色んな音（オノマトペ）を探してみる。

<テーマの設定理由>

色々な音を発見したり、楽器の音色を感じる機会になる為。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。

初めは身近な音（オノマトペ）を探していった。その後、どうして音が鳴るのか、音の仕組みについて考えたり、音には種類があることを学んでいった。

（弦鳴楽器、気鳴楽器、膜鳴楽器、体鳴楽器）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・ウッドブロック ・鈴 ・スピーカー ・ヴァイオリン ・マラカス
・フレームドラム ・カスタネット ・トライアングル ・ピアノカ
・和太鼓 ・シンバル

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・身近にある色々な音（オノマトペ）を探したり、意見を出し合う。
- ・身近にある振動するものを探したり、実際に触れて振動を感じていく。
どこから音が鳴っているのか、音の仕組みを考えていった。
- ・楽器は様々な仲間に分かれていることを学んだ。（弦鳴楽器、気鳴楽器、膜鳴楽器、体鳴楽器）
楽器を演奏したり、振動に触れていき、子どもたちで絵カードを使って楽器を4つに分類していった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 講師の質問に対して積極的に自分の意見を言ったり、友達の意見を聞く姿が見られた。
- ・「雨の音ってどんな音？」一子ども：「ポツポツ」「ざーっ」「ざーざー」「バラバラ」
- ・「ブルブルするものって何がある？」一子ども：「洗濯機」「のど」
- ・「なんで音がなるのかな？」一子ども：「空気が入ってる」「弾いてるから」
- 実際に楽器に振れ、叩き方によって音が違うことを発見していく姿が見られた。また、自由遊びの時間にも玩具等を使って音を鳴らしたり、歌を歌いながら演奏遊びをする姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・普段から何気なく聞いている音や身近な物を使って音の仕組みについて考えていった為、子どもたちにも分かりやすく、興味や関心が持ちやすかったのではと思う。
- ・一人一人感じ方や表現の仕方が違い、様々が考えが出て面白かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	アスク両国保育園
施設所在地	墨田区
法人名	日本保育サービス

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界の国旗

<テーマの設定理由>

日頃から英語のカリキュラムでの外国語に触れるという環境があった為、世界の国旗について知る良い機会だと思い設定しました。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする

初めは日本とアメリカの国旗の違いについて考え、回を追うごとに色々な国の国旗を増やしました。

最後には子どもたちと一緒にオリジナルの国旗を作りました。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・地球儀
- ・画用紙
- ・国旗の絵本

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 国旗にはどんな模様があるのか、どんな色を使っているかなどを考えたり、その国の文化や食べ物の特徴は何か考えたりしました。
- ・ 国旗カードを使ってボーリングのような簡単なゲームなども取り入れ、国旗を身近に感じられるようにしました。
- ・ 今までの活動の締めくくりとしてみんなで1枚の国旗を描きました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 知っている国旗があると嬉しそうに保育者に教えてくれる姿がありました。
- ・ 国旗の模様や形を見て、「星がある」、「川みたい」など身近な物に例えていました。
- ・ オリジナルの国旗では子どもたちの好きな物を思い思いに描く姿がありました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 子どもたちが住んでいる国や場所などを改めて説明し、世界には国毎に違う文化があると伝えるのは出来ませんが、子どもたちにとっては少し難しい部分もありました。そんな中でも少しずつ国旗に興味を持ち、そこから別の国に興味を持つ姿もありました。「まだ難しいかも」と言わずにやってみて、少しでも子どもたちの可能性を、経験を増やせていけたらと感じました。